



大阪中央ブロック 中央南支部  
たに川 谷川 恵

芸妓さんがいて、お茶屋のある地域を花街といいます。関西ですと京都の祇園や先斗町が有名ですが、大阪も歴史のある大きな街ですので、以前は市内各地に花街が賑わい栄えておりました。

それが時勢とともに衰退して、現在は北新地と南地（ミナミ）にかろうじて残っております。皆さまにおなじみの歓楽街、キタ・ミナミも以前は花街で、その呼称は経済の中心である船場からの位置関係に由来します。わが街、南地は道頓堀の芝居小屋を取り囲むように発展。



陽気で華やかな気風で知られ、昭和の初めには2,000人の芸妓を擁し、500軒を越えるお茶屋が軒を並べました。そこへ日毎夜毎、人が集い遊ぶ中からさまざまな文化が育まれておりました。現在も続く行事に、正月の十日戎の宝恵駕行列があります。南地の芸妓が駕籠に乗って今宮戎を参詣、いただいた福を配って回ります。そうした文化を色濃く残す花街のお座敷は、日本の文化を総合的に体験できる場でもあります。外国人観光客が溢れるミナミの街の一角に、そうした伝統がいまだ息づいているなんて、素敵なことではありませんか。

十日戎の笹飾りに宝恵籠というのがありまして、よく福娘さんに付けてもらいますが、今も芸妓さんの宝恵駕行列が続いているとは露ほども知りませんでした。お参りは毎年行っていますが雰囲気のある夜参りが好きで、なかなか昼には行けません。今度は時間と道筋を調べてぜひ見に行ってみたいものです。（編集 西岡）